

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284049

研究課題名(和文)冷泉家時雨亭文庫蔵書の研究

研究課題名(英文)Research of the collection of books Reizeike-Shiguretei-Bunko

研究代表者

赤瀬 信吾 (AKASE, Shingo)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：70137074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：冷泉家時雨亭文庫の蔵書のうち冷泉家時雨亭叢書(朝日新聞社刊)未収録のもの約500点を詳細に調査した。そのうち77点については『新古今和歌集 打曇表紙本 風雅和歌集 春夏』をはじめとする16巻に分けて刊行した(現在も刊行中)。また、特に注目される擬定家本私家集(定家書写本の様式をまねて作成された写本群)については、和歌文学会関西例会においてシンポジウムを催した。これは、鎌倉時代中期から後期にかけての歌書が、どのように作成されていったのかを克明に研究する方法とその意義とを明確にする画期的なシンポジウムとなった。

研究成果の概要(英文)：We investigated about 500 books which aren't recorded in Reizeike-Shiguretei-Sosyo(published by Asahi newspaper company) among the collection of books of the Reizeike-Shiguretei-Bunko in detail. 77 books of them were classified into 16 volumes and it was issued(e.g., "Shinkokin-wakasyu Uchigumori-Byousyi-bon Huga-wakasyu haru-natsu"). We held the noteworthy symposium about Gi-teikabon-Shikasyu (manuscripts made by the imitated style of the book Teika copied) at Kansai regular meeting of the Waka Literature Association. This remarkable symposium clearly the way to study how make a book about Waka of the middle Kamakura era from the latter Kamakura era in detail and its significance.

研究分野：平安時代から鎌倉時代の古典和歌

キーワード：勅撰和歌集 私撰和歌集 私家集 テキストの生成 写本の伝流 歌道家と写本群

1. 研究開始当初の背景

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫の蔵書は、古典和歌の分野において質・量ともに、わが国最高のコレクションである。国宝5件、千点をはるかに超える典籍・資史料が国の重要文化財に指定されている。そのうち冷泉家時雨亭叢書(朝日新聞社刊、全84巻)に収められた典籍・資史料は600点前後に過ぎず、いまだ研究されていない典籍・資史料の数は多い。それらを検討し、さらに影印として刊行することが学界からは期待されていた。

2. 研究の目的

本研究は、残された冷泉家時雨亭文庫の典籍・資史料に精細な調査、検討を加え、今後の日本文学研究に資することを目的とする。本研究を通して、以下の3つの重要な課題を明らかにしたい。

(1)冷泉家時雨亭叢書未収録の蔵書の精確な調査と検討

(2)調査・検討を通じてうかがうことのできる、テキスト生成の場の問題の解明

(3)調査・検討を通じて知られることからの公表によって構想される日本文学研究の可能性

(1)に関しては、平安時代から室町時代までに書写された典籍・資史料についての解明を目指す。また、(3)の問題を明らかにする上で重要な典籍・資史料を選定し、公表の方法を検討し、影印に解題を付した書物として刊行する。(2)については、成果を日本文学研究、特に古典和歌研究の学会に還元させ、学界全体の議論として明確化する。

3. 研究の方法

冷泉家時雨亭文庫の典籍や資史料の個個について、精細な書誌的な調査を加え、書写年代等まで判断する。そのうえで、刊行する必要性の高いものから順次、影印を作成し解題を付して刊行していく。

また、それらの典籍・資史料のうち、ことに特徴的なグループに属するものは、学会においてシンポジウムを企画し研究結果を公表しつつ、なお知見を深める。

4. 研究成果

研究の目的に前述した(1)については、平成25年度には、冷泉家時雨亭叢書未収録の蔵書の精確な調査と検討を進めた。その結果、影印に解題を付して刊行する必要性の大きな典籍・資史料類を選定することができた。平成26年度には選定した典籍・資史料のそれぞれについてより精細で精確な記述を行ない、解題として影印に付して刊行し始めた。『新古今和歌集 打曇表紙本 風雅和歌集 春夏』・『擬定家本私家集 続』(『猿丸集』・『興風集』・『友則集』・『大中臣頼基朝臣集』・『仲文集』・『元真集』・『藤原元真集』・『重之集』・『安法法師集』・『御形宣旨集』など)・『平安私家集 十三 擬定家本私家集 続々』

(『赤人集』・『藤原興風集』・『頼基集』・『時明朝臣集』・『家持中納言集』・『左京兆集』・『高光集』・『道信朝臣集』・『清少納言集』・『伊勢大輔集』・『顕綱朝臣集』など)を刊行した。平成27年度には、『源氏物語 柏木 河海抄 卷第十五 後陽成天皇源氏物語講釈聞書』(『源氏之ますかゞみ』・『後陽成天皇源氏物語講釈聞書』など)・『草根集 上』・『中世私家集 十二』(『円鎮和尚百首』・『持為卿歌』・『持為卿詠草』など)・『歌林良材集 歌合集 続』(『法住寺殿歌合』・『年中行事歌合』・『五十番歌合』・『法楽百首』など)・『草根集 下』を刊行した。

平成28年度は『中世歌学集 続 千首和歌』(『奥義抄』下巻余・『自讃歌伝』・『竹園抄』など)・『古今和歌集 蒔絵小箱三代集本』・『新千載和歌集 代々勅撰御詠』(書名としてあげているもののほかに『行基菩薩等御歌』)・『悦目抄 古今和歌集古注』(『古今和歌集序見聞』・『古今和歌集灌頂口伝』・二種の『古今和歌集聞書』など)・『後撰和歌集 蒔絵小箱三代集本』を刊行した。第十四回以後に刊行する予定の典籍・資史料(たとえば『百人一首』や『百人一首』の注釈書、『拾遺和歌集 蒔絵小箱三代集本』や冊子本の『袖中抄』・『無名抄』・冷泉家に伝わる短冊の手鑑など)についても詳細な調査を進めた。

また、(2)調査・検討を通じてうかがうことのできる、テキスト生成の場の問題の解明に関しては、擬定家本私家集を主要な題材として、平成28年12月3日(土)の第122回和歌文学会関西例会(会場:京都女子大学)において「擬定家本の再検討」と題するシンポジウムを行った。基調報告「擬定家本とは何か」を冷泉家時雨亭文庫調査主任・藤本孝一氏が行い、報告として「擬定家本私家集書写の様相」を尾道市立大学・岸本理恵氏、「擬定家本に於ける定家仮名づかいの継承」を奈良女子大学名誉教授・遠藤邦基氏、「プソイド定家の始発 『汝月明らかなり』と鶺鴒系歌学書への道」を京都産業大学・小林一彦氏が、それぞれ行った。司会・コメンテーターは、研究代表者(赤瀬)と相愛大学・鈴木徳男氏とが務めた。これらの発表はいずれも優れたものであり、擬定家本私家集というテキストの生成された二条家の書写工房の問題のみではなく、藤原定家仮託書などの問題にも関連して中世和歌研究に活性化をもたらした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

赤瀬信吾、俊成・定家覚書 その三 嫉視、冷泉家時雨亭叢書月報、査読無、96号、2016、pp.3-6

赤瀬信吾、俊成・定家覚書 その二 疑惑、冷泉家時雨亭叢書月報、査読無、95号、2016、pp.3 - 6

赤瀬信吾、俊成・定家覚書 その一 没入、冷泉家時雨亭叢書月報、査読無、94号、2016、pp.3 - 6

赤瀬信吾、藤原俊成 新たな扉をひらく者、志くれている、査読有、134号、2015、pp.4 - 5

赤瀬信吾、雅びの軌跡(四) 志くれている、査読有、132号、2015、pp.4 - 5

赤瀬信吾、雅びの軌跡(三) 志くれている、査読有、131号、2015、pp.4 - 5

赤瀬信吾、雅びの軌跡(二) 志くれている、査読有、130号、2014、pp.4 - 5

赤瀬信吾、雅びの軌跡(一) 志くれている、査読有、129号、2014、pp.4 - 5

赤瀬信吾、『自讃歌伝』の出現、志くれている、査読有、124号、2013、pp.2 - 3

〔学会発表〕(計5件)

藤本孝一、擬定家本とは何か、和歌文学会関西12月例会(第122回)シンポジウム「擬定家本の再検討」、2016年12月3日、京都女子大学(京都府・京都市)

岸本理恵、擬定家本私家集書写の様相、和歌文学会関西12月例会(第122回)シンポジウム「擬定家本の再検討」、2016年12月3日、京都女子大学(京都府・京都市)

小林一彦、プソイド定家の始発 『汝月明らかなり』と鶺鴒系歌学書への道、和歌文学会関西12月例会(第122回)シンポジウム「擬定家本の再検討」、2016年12月3日、京都女子大学(京都府・京都市)

遠藤邦基、擬定家本に於ける定家仮名づかいの継承、和歌文学会関西12月例会(第122回)シンポジウム「擬定家本の再検討」、2016年12月3日、京都女子大学(京都府・京都市)

赤瀬信吾、太政天皇という装置、中古文学会秋季大会、2014年10月12日、京都女子大学(京都府・京都市)

〔図書〕(計4件)

赤瀬信吾、朝日新聞社、冷泉家時雨亭叢書中世歌学集 続 千首和歌、2016、743p

赤瀬信吾、朝日新聞社、冷泉家時雨亭叢書草根集 下、2016、846p

赤瀬信吾、朝日新聞社、冷泉家時雨亭叢書草根集 上、2015、706p

赤瀬信吾、朝日新聞社、冷泉家時雨亭叢書新古今和歌集 打曇表紙本、2014、465p

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
赤瀬 信吾 (AKASE, Shingo)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：70137074

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者
田中 登 (TANAKA, Noboru)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：60123668

藤本 孝一 (HUZIMOTO, Kouichi)
龍谷大学・文学部・客員教授
研究者番号：90124320

鈴木 元 (SUZUKI, Hazime)
熊本県立大学・文学部・教授
研究者番号：40305834

小林 一彦 (KOBAYASHI, Kazuhiko)
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：30269568

(4)研究協力者

岸本 香織 (KISHIMOTO, Kaori)